

# 鮮明に闘った闘う動労千葉＝路線の正しさ

## 日刊 動労千葉

791111 No. 全口版 38

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八・九・(公衆)三三三三・二七二〇七

『10・21ストライキ闘争の画期的意義』



全国の動労組合員のみなさん。  
動労千葉は10・21国際反戦闘争を起点とする79秋年闘争を、第一回臨時委員会方針に踏まえ、10・22～11・1の二波にわたるストライキを配置した闘いをもって万全の組織体制のもとに闘い抜き、さらに年末・第三波の闘いへ向けられた組織化に取り組んでいます。国鉄「三五万人体制」粉碎、三里塚・ジェット闘争貫徹を闘い抜くことを通して、動労大改革、日本労働運動の戦闘的再生をかちとってゆく決意は第一波、第二波闘争の勝利によって、ますます確信をもったものとなっています。

### 1 引きずり出された敵対者の本性

第一に、闘う者と労働者に敵対する者の姿をより一層鮮明にさせたことです。  
動労千葉が自らの路線的正義性に確信をもって闘いに決起したとき、権力・国鉄当局が弾圧策動に出てくることは必然ですが、労働者の中から「我こそは最左翼である」と広言しつつ、権力・当局と一体となって、その尖兵として闘争破壊を行った「本部」反動暴力分子達の姿ほど醜悪なものはありません。  
自らが権力・当局と闘うことを通して労働組合(運動)のあり方を問うのではなく、闘う労働者を攻撃し、闘う組織を破壊しようとする者に労働組合の指導を委ねることはできません。  
動労千葉は、この間、「千葉地本排除策動」、「動労千葉破壊策動」と断固対決することを通して「本部」反動暴力分子の反労働者性を暴露してきました。

### 3 「三五万人体制」攻撃と闘い抜ける路線

いま津田沼ではスパイ島田と私利私欲に走ったひとにぎりの裏切分子の一部が、動労千葉組合員の前で、緒方や竹内などの「防衛隊」に「約束が違うじゃないか。三ヶ月で動労千葉はツブレて仲間が増えると言ったから言うことを聞いたのに、いつまでたっても動労千葉はツブレないじゃないか」とくっつけてかかる光景さえ見られるのです。

### 2 強化された動労千葉の闘う団結

第二は、この闘いを通じて動労千葉の闘う団結が飛躍的に強化されたことです。  
「本部」反動暴力分子は、「動労千葉は公労委に認知されない」「団交がきかない」「闘争がでない」というデマ宣伝の一環として、「動労千葉は動員ができない。組合員に見放されて崩壊寸前だ」というデマ宣伝を行っていました。  
しかし、このデマ宣伝は動労千葉が動労「本部」の逃亡を尻目に、職場生産点からの圧倒的高揚をもって二波の闘いを敢然と闘い抜いたことよって完全に粉碎されてしまいました。

森山運輸相のスト処分凍結宣言によって、現実国鉄の職場ではスト圧殺が行われています。「処分をやらせたいためにストをやらない」これほど労働者を踏みつけた無責任なやり方があるでしょうか。権力・当局のスト圧殺策動に対し、「安定宣言」「冬の時代」路線で国鉄労働者を売り渡すことを許してはなりません。  
「特退者の半分しか新採をとらない」という「三五万人体制」の根幹をつき崩す闘いと、業務の間委託、乗務効率アップ、ローカル線切捨て等々の攻撃を職場でひとつひとつひっくり返す闘いを、言葉だけでなく実際の闘いをもって同時に進めなければなりません。動労千葉の「反合・三里塚ジェット闘争」路線はそのようなものとして提起されています。

全国の動労組合員のみなさん。  
闘う動労千葉とともに決起しようではありませんか。